

基幹水利施設管理事業の対象施設となっているパイプラインだけでなく、
国営で造成した全てのパイプラインの強靱化を目指す。

応急対策工事

5月6日：通水のため1号幹線上流部に充水したところ、該当の村道箇所から湧水を発見。敷鉄板にて養生した。

5月7~8日：本管内部へ進入し点検調査を実施。その結果、本管・1号排泥工分岐管から漏水を発見した。

5月8日：本管部補修のため、独立行政法人水資源機構利根川導水総合事務所(埼玉県)へ内面バンドの借用依頼を行い運搬した。

5月9日：本管内部から排泥工分岐管に盲蓋を設置して止水、その後、運搬してきた内面バンドを本管漏水箇所へ設置した。

5月10日：早朝より全域へ通水開始



①排泥管:漏水状況



②排泥管:盲蓋状況



③本管:内面バンド設置状況



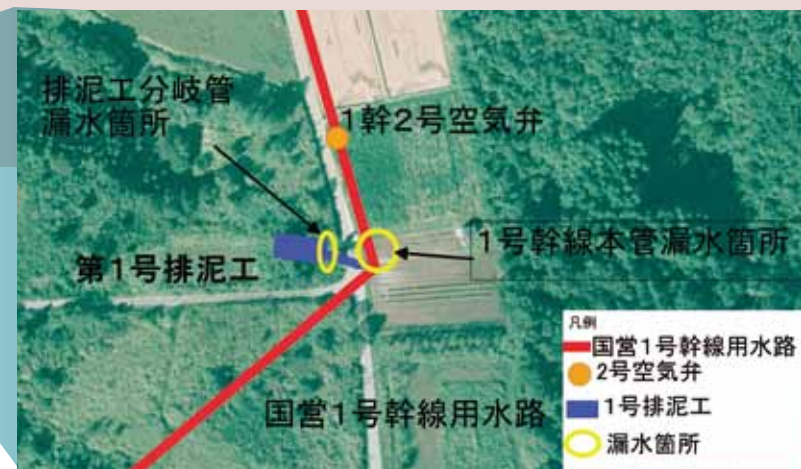
④清水吐水槽にて用水管理センターとの無線連絡状況



⑤5月9日深夜に用水供給再開が可能であることを各関係機関と確認した応急対策工事現場



⑥排泥管:布設替状況



本復旧工事

5月27日：排泥工分岐管内部のカメラ調査を行い電食孔、接続のズレ、パッキンの老朽化による漏水を確認した。

8月11日：排泥工分岐管の全体的な更新のため本復旧工事を発注・契約した。

8月18日~12月18日：
5月9日に排泥工事分岐管へ設置した盲蓋を撤去し、排泥工分岐管(φ400mm)の更新を行い、本復旧工事を完了した。

令和3年1月5日~6日：
新庄市内への消流雪用水供給のために本管を充水し、排泥工分岐管の漏水が無いことを確認した。

今後の対策

これまでも地震等の災害に伴い漏水が懸念される箇所に合う内面バンドを備えていました。今回のようにこれまで想定してこなかった上流部の管水路、国営施設の管水路(1号幹線用水路、2号幹線用水路、3号幹線用水路)の漏水発生に備えて、内面バンドをストックすることで、発注から納品までの期間及び用水停止期間の短縮を図り、安定した用水供給再開に努めてまいります。また、内面バンドのストックによる管水路の補強対策だけでなく、用水供給施設等を被災した場合を想定した仮復旧方法、利用可能な事業及び予算を把握するための各関係機関との強い連携、迅速に対応していただける点検業者の確保にも努め、早急に用水供給再開を行える体制作りを推進してまいります。さらに施設の維持管理に万全を期し、冬に新庄市から受託しております消流雪用水事業においても用水の安定供給を通して、冬も暮らしやすい街作りに貢献してまいります。



追加ストックした内面バンド

[国営第1号幹線用水路本管・分岐管]

漏水事故復旧